

〈特集〉

新しいまちづくりがスタートします

まもなくラオカヤの解体が始まります。今回は岡谷駅前から始まる岡谷のまちづくりについて、いままでの取り組みとこれからについてお知らせします。これから始まる新しいまちづくりを、みんなで一緒に考えていきましょう

みんなの 駅前空間 イメージ

開かれたパブリック
スペースがつくる、
未来の岡谷

岡谷駅に降り立ったとき、
商店街を歩いたとき、公園で
ひと息ついたとき、家族や友人と
過ごしたとき、ふと、心に浮かぶ
「やってみたい」がある。

小さな「やってみたい」が、
まちを育み、紡がれる。
そんな岡谷のこれからを、
みんなで一緒に
つくりあげていこう。

主役は「あなた」、
そして
一緒に育む「仲間」が
このまちにはいる。

まちの未来は、行政だけが
描くものではなく、
市民や地域の好奇心が集まり、
響き合うことで、岡谷らしい、
岡谷だからこそのできる
まちづくりが始まる。
これは、その第一歩。

※このイラストは、ワークショップなどの市民の意見を
反映して作成した、ラオカヤ跡地のイメージであ
り、具体的な配置や規模を示すものではありません。

誰かと話したい、
何かを始めたい、
知らないことを知りたい、
好きなことを
深めたい。

それは、ほんの小さな
好奇心かもしれない。でも、
きつとそのひとつひとつが、
まちの未来へ紡がれる
力となる。

「ひとりひとりの
好奇心が寄り合い、
あなたのやってみたいが
叶えられるまちへ」
この言葉には、
岡谷のまちづくりに対する
市民の新しい姿勢が
込められている。

空間を
ただ整備するのではなく、
そこに人の営みが
根づくことを目指す。

イベントを開きたい人、
作品を展示したい人、子どもと
遊びたい人、静かに読書したい人、
地域の歴史を伝えたい人、
新しい挑戦を始めたい人…
それぞれの「やってみたい」が、まちの
あちこちで芽吹き、やがて誰かの
「やってみよう」に変わっていく。

そんな循環が
生まれるまちこそ、
市民が誇りを持ち、
訪れる人が魅力を感じる
場所になる。

これからの岡谷の
まちづくりは、空間や
仕組みに少しずつ手を入れ、
市民の活動と結びつく
「創造的で表現する場」を
つくりあげる。



「岡谷駅周辺 まちの将来ビジョン」

20年後の未来を見据えた
まちづくりを進めるための指針



「岡谷まちなか空間 活用のススメ」

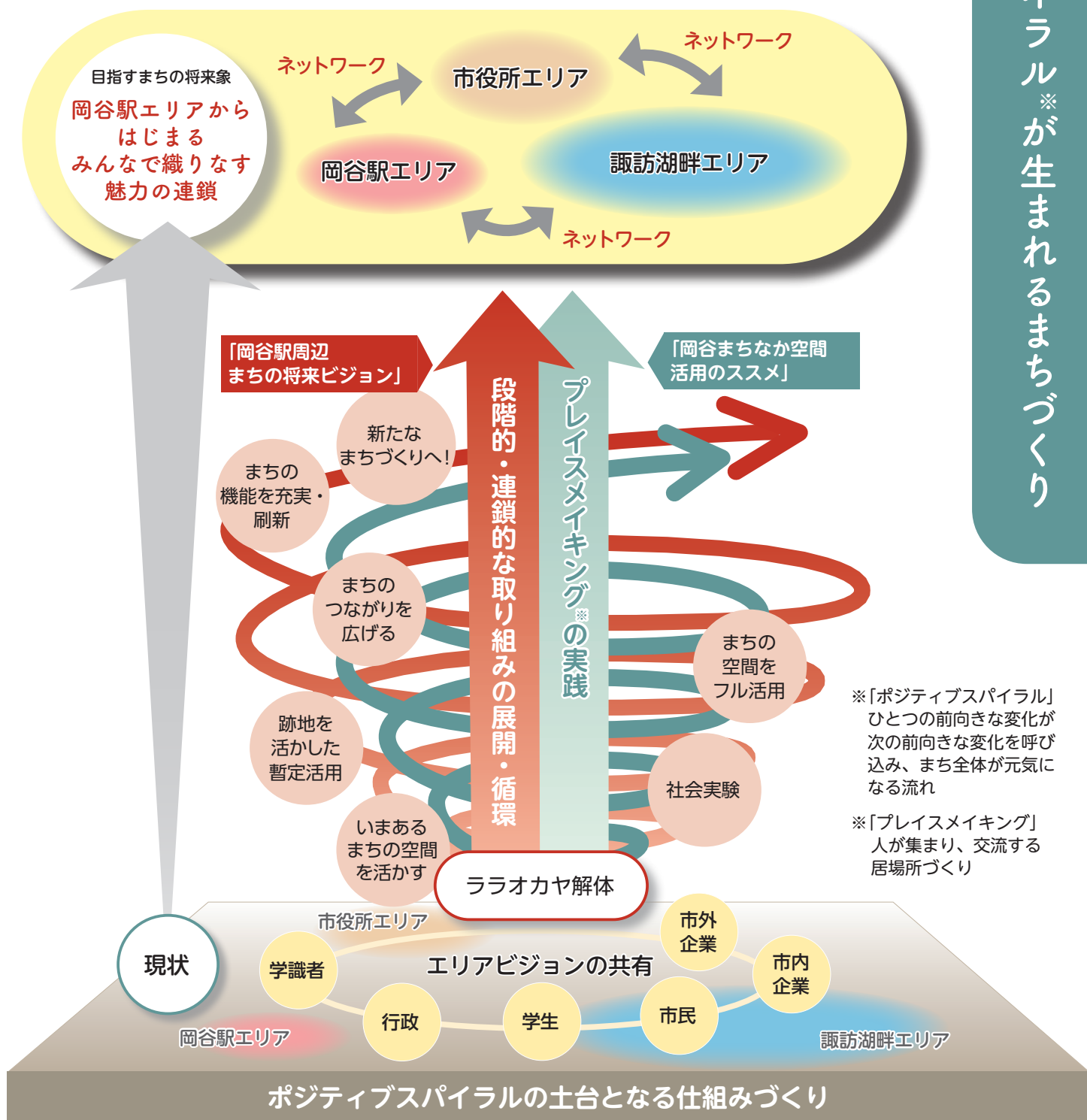
まちなかの公共空間（道路や公園）を
使いこなすためのコンセプトや取り
組みアイデアを整理した共通指針



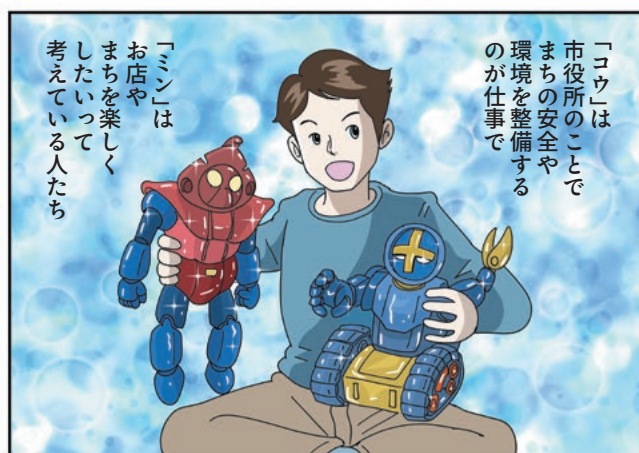
“目指すまちの将来像の実現” に向けて！

20年後の未来を見据えたまちづくりを進めるための指針「岡谷駅周辺まちの将来ビジョン」と、
まちなかの公共空間(道路や公園)を使いこなすためのコンセプトや取り組みアイデアを整理した
「岡谷まちなか空間活用のスメ」を行政と市民が共有し、段階的・連鎖的にまちづくりを進めます。
「岡谷駅エリア」、「市役所エリア」、「諏訪湖畔エリア」の3エリアが
ネットワークでつながる将来の姿を目指します。

ポジティブスパイラル※が生まれるまちづくり



市と市民が力を合わせたまちづくり（公民連携）



公民連携の役割分担のイメージ

市民が取り組みやすい仕組みの構築、
制度の改善や運用。
公共空間（道路・公園）整備などの実施。

小さな試みから、組織的連携で実施
するもので、市民の自由度を生かした
取り組みを主体的に実践。

行政の
役割

連携
・
協働

市民の
役割

- 市民の取り組みを実現するために、関係組織・権利者・庁内部署などの横の連携を強化・調整します。
- 具体的な取り組みの実施に向けた計画の策定・更新と規制緩和を進めながら予算の確保に努めます。
- 道路や公園などの公共施設に関する事業を進めます。
- 市民のみなさんのご意見を把握するように努め、事業に反映させていきます。

- 「岡谷まちなか空間活用のおすすめ」（P3のQR参照）にのっとり、公共空間や資源をいかし、市民自らがやりたいプロジェクトを主体的に提案し実践していきます。
- 民間ならではのスピード感と自由度をもって、“いま”できる小さなことから始め、イベント企画やワークショップなど、ソフト面を中心とした取り組みを実施します。
- 情報・意向などを社会全体に向けて発信していきます。

2026

7月12日①

岡谷まちづくり
シンポジウム
@テクノプラザ
おかや

こんな活動を
しています！



▲市長も参加してのトークセッション



▲テクノプラザおかやホールにて



▲参加者による
「岡谷まちなか空間活用のススメ」の解説



▲三牧浩也さんを招いての基調講演

プロフィール：
UDC信州副センター長
UDCイニシアチブ理事
東京大学特任研究員

2026

8月8日②

第1回 社会実験への
企画会議
@テクノプラザ
おかや

公募で集まった市民20人がテクノプラザおかやに集合。対象地の基本方針やアクションを確認したあと、グループごとにまちを歩いて各地の魅力や可能性を探りました。「岡谷駅周辺まちの将来ビジョン」のもと、市民・事業者・行政が協働し、みんなの「やってみたい」がまちの居場所づくりを前に進めています。



▲終了後の集合写真



▲概況報告



▲成果発表



▲ワークショップ形式



▲まちを観察

やります！ 社会実験！

10/24①

ハシノウエ市で
ビジョン紹介・動画
放映・フリーコーヒー
(予定)

@ララオカヤ跡地・
岡谷駅北口

10/31①

ハロウィンの
仮装イベントなど
(予定)

@童画館通り

11/3火祝

防災体験
(予定)

@蚕糸公園

11/7①

フリーマーケット、
しおりづくり体験など
(予定)

@蚕糸公園

わたしたちが まちづくりに関わる理由。

まちづくりのワークショップに参加している3人に、まちづくりへの想いをうかがいました。

Q1 岡谷市のまちづくりに関心を持つ
たきっかけは何でしょうか？

小口さん わたしがまちづくりの活動に興味を持つきっかけになったのは、岡谷市のA O H S※への参加です。高校時代、楽しいことがやりたいと思い、さまざまな活動に参加していたわたしにとって、まちづくりという活動は、多種多様な活動に参加する足掛かりになりました。

高林さん 周囲の友だちや仲間が市外・県外へと進学・就職し、地元で暮らす人が少なくなっていました。地域でも次世代の担い手が足りなくなっていると感じ、これからの岡谷がどうなっていくのか気になっていました。また、さまざまなまちづくりに関するイベントに参加するなかで、機会があれば実際のまちづくりの活動に参加してみたいと思いました。

Q2 まちの公共空間が「居場所」になる
ために何が大切だと思いますか？

高林さん 居場所になるためにはその人にとって愛着がある場所になることが大切な要素だと思います。これまでの行政が中心となって作る空間だけではなく、市民の意見や思いを取り入れた、市民も主体的に参加する空間づくりが、集いやすくなる空間や場所になっていくのではないかと思います。

本間さん 「フラットな関係性」と「できることの見える化」が大切だと思います。居心地の良さを保つにはルールも必要ですが、「あれもダメ、これもダメ」と禁止事項ばかり増えると、居づらい空間になってしまいます。「ここで本を読んでもいい」「レジャーシートを広げてもいい」といった「何をしてもいいか」という前向きなルールを見える化すること。それによって、子どもから大人まで誰もが自由に自分らしく過ごせる場所を作れると考えています。

Q3 まちづくりに市民が関わることに
ついてどう感じていますか？

小口さん まちづくりで作られる居場所は、市民の居場所でもあると思います。市民の居場所を、市民の手で作っていくことは、本当に必要なものを作り上げることにつながると感じます。わたしも岡谷市民であるため、地元岡谷の居場所を自分で作っていくことをとてもうれしく思います。

本間さん 自分たちが暮らすまちだからこそ、市民が主体的に関わり、わたし自身も積極的に参加したいと考えています。当然、多様な人がいるので全員の見解をまとめる難しさはありますが、自分たちのまちの魅力を市民自身が実感できていないと、まちの未来は暗くなってしまうと感じています。



小口 凛さん

エーオーエイチエス
※「A O H S」
岡谷市をテーマとし、高校生が自ら企画や情報発信を行う団体



本間 順子さん



高林 敦樹さん

今後の整備スケジュール

ラオカヤ解体：令和8年10月1日 工事着手 ～ 令和10年9月末 完了予定

駅前ロータリー再整備：令和10年10月 ～ 令和13年3月予定
ラオカヤ跡地広場整備：

ラオカヤ跡地広場利用：令和13年4月 開始予定

インスタ
始めました！



問合せ ● まちづくり整備課（内線1334）